名古屋市デジタル学習基盤整備計画（案）に対する
市民意見の内容及び市の考え方

令和7年3月
名古屋市

名古屋市デジタル学習基盤整備計画（案）パブリックコメント実施結果

名古屋市デジタル学習基盤整備計画（案）に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただきましたご意見の概要と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、ご意見の内容は、趣旨の類似するものをまとめているほか、原文を一部要約するとともに、項目別に分類して掲載していますのでご了承ください。

1 実施期間 令和7（2025）年1月23日（木）から2月21日（金）

2 提出状況

区分	電子メール	郵送	ファックス	直接持参	計
提出者数	5人	0人	0人	0人	5人
件数	13件	0件	0件	0件	13件

3 意見の内訳

区分		件数
第1章	計画策定の趣旨	0件
第2章	1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	0件
第3章	ICT環境に係る整備計画	7件
第4章	端末の利活用計画	4件
第5章	校務DX計画	2件
計		13件

市民意見の内容と市の考え方

第3章 ICT 環境に係る整備計画に関すること (7件)

○端末に関すること

【市民意見】

小中学校で統一したシステムで ICT を学ぶことが一番であり、次期端末を校種で分ける理由が理解できない。OS アップデートやセキュリティ対策、アプリケーションの豊富さ等を踏まえても、端末は Google Chromebook に統一して、Google Workspace を契約するのが一番良いと考える。

【市の考え方】

アクセシビリティや持ち運びやすさ等の観点から、小学校及び特別支援学校では iPad の導入を予定しております。なお、小学校及び特別支援学校においても、Google Workspace の活用を想定しており、校種を問わず市立学校全体で Google Classroom をはじめとする Google アプリケーションの利用を予定しています。

【市民意見】

Windows 端末の故障率が異常に高いのは、新聞報道にもあった一部メーカーの端末が原因なのか。中学校に導入予定の Chromebook を入札で導入した際、価格優先でスペックの低い端末を納入する業者が現れることを危惧している。Chromebook の納入にあたっては、入札条件を厳しくしていただきたい。

【市の考え方】

当市の端末の故障率が高い原因は、機種ごとのスペックに限らず、端末の持ち帰り学習の頻度等多岐にわたると考えております。また、次期更新にあたっては、国の示す最低スペック基準に加え、本市における第1期の課題を踏まえ、一定の堅牢性を求める予定です。

【市民意見】

次期 OS の選定について、特別支援学校の iPad は、高等部を含むのか、義務教育部分だけなのか。

【市の考え方】

本計画は、義務教育段階の ICT 環境整備に係る方針を示したものであり、特別支援学校高等部は含んでおりません。

特別支援学校高等部を含む高等学校の今後の ICT 環境整備については、別途検討してまいります。

○ネットワークに関すること

【市民意見】

Next GIGA に向け文部科学省が SINET の利用を開放したが、上流回線での SINET 利用を検討したのか。また、名古屋市より端末数の多い千葉県や横浜市で SINET が活用されていることをどう考えているのか。

【市の考え方】

SINET (学術情報ネットワーク) の利用については、国の接続意向調査等に際して、接続方法の検討を行い、費用対効果が見込めないと判断した経緯がございますが、国や他都市の状況を注視するとともに、回線契約の更新に向けて引き続き検討してまいります。

【市民意見】

- 民間企業が提唱する次世代情報通信ネットワークの構想では、「省電力」「低遅延」の特徴があり、学校での導入、実証実験が叶えば、子どもが最先端技術に触れられ、学習意欲や知的好奇心に働きかけることが期待できる。
- ネットワークは一部人工衛星 Wi-Fi など併設しておくことで自然災害発生時などに避難所となる学校でインターネット通信が途切れるリスクを減らせると考える。

【市の考え方】

いただいたご意見につきましては、関係部署と情報共有を図り、今後の参考とさせていただきます。

○大型提示装置に関すること

【市民意見】

移動式のプロジェクタは準備に時間を要し、また取り扱いも煩雑であり、現状電子黒板内蔵型プロジェクタが黒板の上部に設置されているケースが多いことから、固定式のプロジェクタを設置し、準備に要する時間も原則5分以内ではなく、限りなく0分を目指すべきである。

【市の考え方】

いただいたご意見につきましては、関係部署と情報共有を図り、今後の参考とさせていただきます。

第4章 端末の利活用計画に関すること (4件)

○キーボード入力に関すること

【市民意見】

キーボード入力は、ブラインドタッチができるように指導した方が良いと思う。「箸」と同じで、正しい方法を最初に教われれば、そのスキルは一生身につくものになる。

【市の考え方】

キーボードによる入力は、学習の基盤となる資質・能力の一つと認識しておりますので、関係部署と情報共有を図り、今後の参考とさせていただきます。

○探究的な学びに関すること

【市民意見】

「この授業（内容）は将来何の役に立つのか？」という子どもの疑問をインターネットで調査したり、生成AIに問いかけさせたりすることで、子どもが「これから学ぶ授業（内容）は社会のこういう部分で活用されている」と認識でき、学習意欲の向上に期待出来るのではないか。

【市の考え方】

インターネットや生成AIを適切に活用し、子どもが探究的な学びをより進められるようにしていきたいと考えておりますので、関係部署と情報共有を図り、今後の参考とさせていただきます。

○多様な人との学び合いに関すること

【市民意見】

タブレット等で利用が容易な翻訳アプリやリアルタイムで会話を認識・翻訳し字幕を表示する透明ディスプレイ等を導入し、それらを活用した外国人との交流の機会を増やせると良いと思う。「外国人と交流する心理的なハードル」を子どもの頃から「補助付きでどうにかなりそう」と下げておくことも重要だと考える。

【市の考え方】

1人1台端末をコミュニケーションツールとして活用し、子どもが多様な人と学び合うことができるようにしていきたいと考えておりますので、関係部署と情報共有を図り、今後の参考とさせていただきます。

○家庭端末との連携に関すること

【市民意見】

我が子が実際に今タブレット端末でどのようなことをやっていて、どの程度理解しているのか知りたいと思うことがある。学校のタブレット端末と自宅の端末が繋がり活用できれば親は一目瞭然で、今学校で学んでいる内容がわかる。個人情報流出の心配などもあり難しい面もあると思うが、検討してほしい。

【市の考え方】

家庭の端末との連携による利便性の向上とアカウント利用におけるセキュリティリスクのそれぞれの観点を踏まえつつ、引き続き検討してまいります。

第5章 校務DX計画に関すること (2件)

○校務におけるクラウド利用に関すること

【市民意見】

校務DX化やローケーションフリーの推進のためクラウド化移行するとされているが、クラウドストレージは十分な容量が用意されるのか。また、移行に伴ってNASやUSBメモリをなくす方向なのか。そうすれば、その維持管理にかかる莫大な労力や費用が不要、セキュリティ上も有効となるのでは。

【市の考え方】

校務DXの推進に当たっては、必要なストレージ容量を確保するとともに、クラウドサービスの活用を進めることで、業務の効率化とセキュリティの向上を図ってまいります。

USBメモリなどの外部記録媒体の利用頻度低減については、新たなクラウドサービスの活用を図りながら、着実に取り組んでまいります。

○セキュリティ対策に関すること

【市民意見】

クラウド化、ローケーションフリーといったことに伴い、ゼロトラストに関する情報セキュリティ研修といったことは、必須と思われるが今後計画するのかどうか。

【市の考え方】

昨今のサイバー攻撃の状況や、他の自治体などにおけるセキュリティインシデントの状況などを踏まえながら、教職員への研修を含め必要なセキュリティ対策に取り組んでまいります。